

# 透析患者における腎移植情報提供継続の必要性

長崎腎病院

○小島愛 米田千恵子 熊博和 久保純子 丸山祐子 原田孝司 船越哲

## 【背景】

療法選択時における患者への関わりと情報提供の質と量により腎移植に対する患者の意識は変化するものと思われる。

## 【目的】

当院外来血液透析患者の腎移植に関する認識（情報の提供状況）について調査する。

## 【対象および方法】

当院外来血液透析患者 280 名のうち、適応条件（悪性腫瘍の有無、感染症の有無等）に準じて、抽出した 65 歳以下の 40 名を対象とし、腎移植に対する考えについて聞き取りアンケートを行う。

## 【結果】

透析導入前、導入後共に腎移植についての説明を全体の 70%が受けていた。また、透析導入前と導入後では、導入後の説明の方が腎移植への考えや関心が高まることがわかった。しかし、実際に腎移植を希望する数は 20%に留まった。

## 【考察】

透析導入時、導入後に腎移植への説明を受け、考えや関心が高まるが、その後の対応として腎移植についての情報提供を設ける機会がなかったため、患者自身の腎移植への意識が低下していると考えられる。